

クロマツシンポジウム開催

12月16日（金）酒田市勤労者福祉センター大ホールにおいて、特定非営利活動法人「庄内海岸のクロマツ林をたたえる会」主催「第7回クロマツシンポジウム」（副テーマ：公益の種をまき続けよう 種まかざれば実りなし）が開催されました。

シンポジウムには、行政関係、森林ボランティア団体、一般市民等合わせて約130名が参加し、当ふれあいセンターからも、「みどりの保育園」を通じて森林環境教育を支援している西荒瀬保育園児達の出演すること、庄内海岸林の取組について発表があることから4名が参加しました。

このシンポジウムは、「公益」の象徴であり、先人から託された遺産である庄内砂丘のクロマツ林を地域の宝として未来につなぐため、様々な海岸林保全の取組を広く紹介し、議論し、交流することにより、多様な主体の協働により、大いなる遺産を未来につなごうとする機運を高めていくことを目的としています。

まず、主催者である「庄内海岸林のクロマツ林をたたえる会」砂山理事長より挨拶の後、第1部では、クロマツ林がつなぐ子供たちの未来（教育とクロマツ）として、西荒瀬保育園年長組の園児と日和山楽団の伴奏による「クロマツの歌」、「庄内米の歌」の元気な合唱がありました。次に、遊佐町立稲川小学校四年生の皆さんによる創作劇「砂丘に緑を」の上演、遊佐町立遊佐中学校、山形県立酒田北高による砂防林等整備についての活動報告がありました。

第2部では、企業の森づくりと国有林の取組みとして、「JTの森鶴岡における森林保全活動について」、「Honda Cars 山形環境創造プロジェクトについて」発表があり、当センターも「庄内海岸林等の生物多様性について」と題し、大内自然再生指導官がセンターでの庄内海岸林の取組について発表を行いました。

この後、会場との意見交換を経て、最後に、参加者全員で「クロマツの歌」を声高らかに合唱し、閉会となりました。

参加者からは、「今日のシンポジウムは、クロマツを守る人達のお祭りのような盛り上がりのあるイベントである。」との意見がありました。特に、最初に合唱した西荒瀬保育園年長組の皆さんの物怖じしない、堂々とした姿は、参加した人々に感動と希望を与えてくれました。

庄内海岸林では、クロマツ林を後世に残していくための取組が、大人だけでなく、保育園児から高校生までの幅広い年代で行われています。この子供たちが庄内の地に住み、クロマツ林を守り育てていくことを期待するとともに、将来にわたってこの地に定住できるような環境づくりをしていくことが、大人たちの役割ではないかと考えさせられました。



朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター